

耐冷性が強くギャバを多く含む巨大胚水稻品種「恋あずさ」

水田利用部 稲育種研究室 電話0187-66-2773



研究のねらい

消費者の健康志向の高まりから、機能性食品への関心は高く、ガンマアミノ酪酸(ギャバ、GABA)を多く含む発芽玄米の市場が急速に発展してきている。一方、胚芽が大きい巨大胚米は一般米よりもギャバ含量が多い。

そこで、ギャバ含量の多い発芽玄米用に、東北地域向けの耐冷性が強い巨大胚ウルチ品種を育成する。

成果の内容

- ①「恋あずさ」(水稻農林407号)は、2005年に東北農業研究センターで育成された、“早生の晩”に属する巨大胚ウルチ品種である。
- ②胚芽の重さは一般品種「あきたこまち」の約2倍ある(図2)。ギャバ含量は、玄米で比べると「あきたこまち」の6.5倍あり、発芽玄米で比較すると約2倍である。
- ③収量性は「あきたこまち」並で、耐冷性は非常に強く、“極強”である。
- ④発芽玄米にして利用する場合(図3)には、炊飯米の粘りが少ないが、粘りが強い低アミロース米を混ぜると、食味が比較的良くなる。



図1 「恋あずさ」の草姿



図2 玄米 (左：恋あずさ、右：あきたこまち)
囲み部分は胚芽

成果の利活用

- ①出芽率が一般品種と比べて劣るが、育苗の際に播種量を増やす(重量比で一般品種の約1.5倍量)ことで同程度の苗立ちを確保することができる。
- ②いもち病抵抗性が弱いいため、適期防除を徹底する。
- ③穂発芽性が“やや易”であるために、刈り遅れに注意して適期収穫に努める。



図3 「恋あずさ」の発芽玄米試作品